

WEEKLY SIGNAL

平成27年4月3日(金) 1269号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	4/6(月)	4/7(火)	4/8(水)	4/9(木)	4/10(金)
無担保O/N	0.010% ~ 0.125%				
銀行券	+ 2,000	+ 1,000	+ 1,000	トシ	△ 1,000
財政他	△ 28,900	+ 4,000	△ 2,000	△ 4,000	△ 4,000
資金需給	不 26,900	余 5,000	不 1,000	不 4,000	不 5,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)				国庫短期証券発行・償還(6M)
オペ期日	共通担保 CP等買入	△ 2,400 △ 400			
オペスタート	共通担保	+ 2,300	国債買入 短国買入	+ 11,500 + 20,000	
(日本)	景気動向指数(2月)	日銀金融政策決定会合 (1日目) マネタリーベースと日本銀行の 取引(3月) 営業毎旬報告(3月31日現在) コール市場残高(3月)	日銀金融政策決定会合 (2日目) 黒田日銀総裁会見 国際収支(2月) 景気ウォッチャー調査(3月)	日銀金融経済月報(4月) 対外対内証券売買(前週分)	
(海外)	米 ISM非製造業総合景況指数 米 NY連銀総裁講演	米 消費者信用残高(2月) 欧 ユーロ圏生産者物価指数 (2月) IMF、世界経済見通しを公表	米 FOMC議事録 (3月17-18日分) 米 MBA住宅ローン申請指数 (前週分) 米 NY連銀総裁講演 欧 ユーロ圏小売売上高 IMF、国際金融安定性報告書 を公表	米 新規失業保険申請件数 (前週分)	米 財政収支(3月) 米 リッチモンド連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.070 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初194兆円台から始まり、その後は日銀の国債・国庫短期証券買入オペ等の潤沢な資金供給により31日には201兆円まで増加し、週末には202兆円台となった。
無担保コールON物は先週と比較して更に地合いは弱まり、31日は0.06%台を中心に取引されたものの、期末初となる31日はビッドが立たず、一部0.001~0.005%まで出合った。4月1日~2日に関しては金利は上昇し、0.05~0.06%を中心に取引された。加重平均金利は31日の0.015%をつけたほか、0.056~0.064%で推移した。ターム物に関しては、3月末越えとなる期間では調達する動きがほとんど無かった。

4月1日以降のスタートについては2W~3Wで0.11%台後半の出合いが見られた。来週の材料として国内では日銀金融政策決定会合(7日~8日)、黒田日銀総裁会見(8日)、海外ではIMF経済見通し公表(7日)、FOMC議事録(8日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.075 ~ 0.085
TDB 3M	0.000 ~ 0.010
現先(on/1w)	0.050 ~ 0.090

<CP>

今週の入札発行額は約9,700億円で、期明けの復活発行により、期落ち額約2,700億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。

無担保コールON物の入札発行レートは、0.080%台前半~0.110%近辺とほぼ横這いで推移した。
現先レートは、0.050%~0.090%程度と、低下して推移した。来週の期落ち額は約4,300億円となっている。

<TDB>

2日に国庫短期証券3M第522回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0160%(前回債0.0320%)、平均落札レートは0.0092%(前回債0.0164%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで0.003%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは△0.019%近辺の地合いとなっている。来週7日に6M、9日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCはネガティブレートとなった期末初からは値を戻し、週初0.03%台中心の出合から始まった。その後週央にかけては輪番オペ等の影響によりレートが低下し0.01%台での出合も一部見られた。また短国・10年債の発行日となる6日受渡では、SNでは0.03%台での出合いだったものの、TNではレートが上昇し0.08%の出合いも見られた。また週末には短国買入オペが2兆円オファーされたこともあり、レートが低下し0.02~0.03%での出合いとなり越週した。SCは10年338回債が引き続きネガティブレートで出合ったが、リオープンされてからはプラス圏内での出合いとなった。ON物ターム物ともに△0.15~△0.20%の出合い。2年債は344・347・350回債、5年債は109・116・122・123回債、10年債は323・325・336・338回債、20年債は152回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。